



SISTER CITIES NEWS

姉妹・友好都市ニュース

International Friendship Association of Ibaraki

Vol.80 2023.11.20

茨木市国際親善城市協会

オリンピックマラソンスタート風景



CONTENTS — 目 次 —

- 2023 小豆島オリンピックマラソン全国大会が開催されました! 2
- 小豆島町と姉妹都市提携 35 周年記念 3
- 一般社団法人 茨木カンツリー倶楽部青少年国際交流助成事業を実施されました! 4~5
- 英語俳句コンテストの紹介 6
- 箕面市及び公益社団法人 箕面市国際交流協会表敬訪問 6
- 通訳ボランティア制度・各活動団体を紹介します! 7
- 茨木市国際親善都市協会ホームページをご覧ください! MINNIBARAKI に記事を投稿しませんか? . . 8

2023 小豆島オリーブマラソン全国大会開催

令和5年5月21日（日）に4年ぶりに2023小豆島オリーブマラソン全国大会が開催されました。コロナ禍の影響で訪問団を組んでの参加はできませんでしたが、姉妹都市、茨木市民ランナーとして10名の方がエントリーされました。

大会当日は天候にも恵まれ、10kmロードレースのスターターを福岡市長を務められました。醤油蔵が立ち並ぶ「醤油の郷」、「二十四の瞳」で知られる岬の分教場、オリーブの新緑や穏やかで美しい瀬戸内海を眺めながら、豊かな自然と歴史を感じつつ、各ランナーがエントリーしたコースを、さわやかな汗を流しながらゴールをめざし走り抜きました。

大会関係者や地元の中高生など総勢600名のボランティアによるのサポートを受け、ランナーとボランティアの方々が一体となり、大会を盛り上げ、思い出に残る大会となりました。



「私たちは、明るく、元気よく、楽しく走ることを誓います」

カラリと晴れた青空のもと、選手宣誓をさせていただきました。

4年ぶりの大会に選手の皆さんの顔もワクワク感でいっぱいです。茨木市福岡洋一市長の号砲で一斉にスタート。坂を上がり、常宿だったホテルの前、醤油香漂う街を抜け、やっと、でも、楽しくゴールすることができました。沿道の皆さんの温かい声援にパワーを頂いたのは言うまでもありません。

ゴール会場には、茨木市民専用のテントも設営されており、とてもありがたかったです。職員の方々にも色々気配り頂き、大変有意義な小豆島の日を過ごすことが出来ました。来年はより多くの茨木市民ランナーが参加されますよう期待しています。

茨木市民ランナー 平松としみ



マラソン会場は、開催を心待ちにされていた全国各地から集まった人々の熱気に満ち溢れていました。茨木市民ランナーの皆様も久々の開催を楽しみにされていたようで、出走前は完走や自己ベスト更新に向けた意気込みを、ゴール後は達成感に満ちたお顔でマラソン中の出来事などをおしゃべりされ、ランナー同士の親睦も深められた大変有意義な時間になりました。

マラソンに合わせて島内観光をされた方も多く、美しい自然、アート作品や観光施設の見学、多くの名産品等も堪能され、見どころ満載の初夏の小豆島を十分に満喫されたようです。

また、小豆島町職員の方々には茨木市国際親善都市協会用テントの設営をはじめ、様々なサポートをしてくださり、姉妹都市の変わらぬ絆をあらためて感じました。

皆さまのおかげをもちまして、快晴の下、無事全員完走という素晴らしい大会になりました、誠にありがとうございました。

次回大会も奮ってご参加いただき、多くの協会の皆さまに小豆島の豊かな自然の中、沿道の町民の皆さまの温かな声援を背に受け、颯爽と駆け抜けていただきたいと思います。

(当協会事務局)



号砲を鳴らす福岡市長



福岡市長、下野議長、南島原市長と共に

小豆島町姉妹都市提携 35 周年記念

提携の経緯 昭和 63 年 10 月 2 日（旧内海町）と提携。多くの市民からの自然を求める声、特に海のある地方との交流を行い、市民活動の場を広げたいとの思いから、多くの候補都市の中から（旧内海町）現小豆島町との姉妹都市提携に至りました。その背景には、本市と内海町とは茨木城主であった片桐且元が一時期小豆島で代官をつとめるなど、歴史的なゆかりに加え、近代文学に大きな足跡をのこした、*川端康成と壺井栄を生み出した両市町は、文学的風土においても共通性持っていたため、将来にわたって交流を図り、両市町の発展と住民福祉の向上を祈念し市制施行 40 周年の記念事業として姉妹提携。*川端康成：代表作「伊豆の踊子」「雪国」等 1968 年ノーベル文学賞受賞 壺井栄：代表作「二十四の瞳」等 1967 年小豆島町（旧内海町）名誉町民受賞

小豆島町と姉妹都市提携 35 周年を記念し両市町の交流促進と発展を願い実用的な記念手ぬぐいを作成しました。

姉妹都市関係を身近に感じていただくことを目的に作成・配布します。デザインは、本市にゆかりの芸術家であるヤノベケンジさんのアート作品をモチーフにしており、両市町に設置されている作品をデザインしています。

トピックス

小豆島町から茨木市に対して姉妹都市提携 35 周年を記念して『オリブハンドクリーム』が提供されました。200個が提供されました。小豆島町の宿泊補助申請された方々にお渡しされています。



記念手ぬぐいイメージ

茨木市民の方は姉妹都市の竹田市、小豆島町に宿泊される場合に宿泊費用の一部負担制度があります。

対象 小学生以上の茨木市民

回数 年度内に各市・町で1回

宿泊施設 茨木市の指定宿泊施設（詳しくは茨木市HPへ）

補助額

竹田市 ▶ 中学生以上5,000円・小学生3,000円

小豆島町 ▶ 中学生以上2,000円・小学生1,500円

※小豆島には小豆島町と土庄町の2つの町があります。小豆島町にある宿泊施設のみが補助の対象になりますのでご注意ください。



竹田市



小豆島町

茨木市HP「竹田市・小豆島町宿泊補助制度」のページのQRコードはこちら

一般社団法人 茨木カンツリー倶楽部

青少年国際交流助成事業基金

当基金では、茨木市国際親善都市協会主催・共催事業や、海外や国内外姉妹都市等でのスポーツ・文化交流に参加する市内の青少年（満24歳以下）または青少年団体などに助成しています。

今年は本助成制度を利用され、ワールドウイングススポーツバトンクラブ、早稲田摂陵高等学校、茨木スカウト連絡会、一般社団法人国際交流センターの青少年が国際交流を図られました。

（内訳：アジア地域：1団体、アジア地域外：3団体）

参加者報告

ワールドウイングススポーツバトンクラブ

ホノルルフェスティバルでは、たくさんの観客がいてとても緊張しましたが、お客さんが盛り上がっていたので楽しく笑顔で踊ることが出来ました。現地の子供たちとの交流会では、いっしょにダンスやぼんおどりをおどって仲良くなれました。初めは緊張していたけど交流会やステージを経験するうちに帰りたくないと思うくらい、とても楽しかったです。これからも一生けんめいダンスの練習を頑張りたいと思います。そして自分のダンスを見ている人を笑顔にできる様になりたいです。（蓼原 月音）

私がこのハワイ公演で学んだことを2点紹介します。1点目は、パフォーマンスは人を笑顔にすることです。2点目は、異なる文化で育ち、異なる言語を話していても、努力すれば意思疎通することができるということです。英語という自分の母国語とは違う言語を使いながら初めて会う人々と交流することは大変で苦労しましたが、それ以上に様々な人々と出会い、交流出来たという経験はとても価値のある素晴らしい思い出になりました。これからもこの経験を忘れず、初めて会った人や、異なる言語を使用している人に自分から自信を持って交流していきたいです。（舟田 愛）

早稲田摂陵高等学校

私達はウインドバンドはイタリア・ジュリアノーヴァで開催されたジュリアノーヴァ国際音楽祭に出場し、8カ国11団体中、最優秀シンフォニックバンド賞、最優秀マーチングバンド賞そして、総合優勝をいただきました。

この大会期間中が市内をパレードしたり、浜辺周辺で練習したりしました。イタリアの街並みは色鮮やかで美しく、海風を感じながらの練習はとても心地良かったです。私達が演奏を始めると、通りすがりの人々が足を止めて手拍子や拍手をしてくださりイタリアの人々の温かさを感じました。

大会本番のステージもとてももりあがり、最後にスタンディングオベーションを頂いた時の感動は一生忘れられない貴重な経験となりました。

他国からの参加されてバンドとの交流もあり、言語や文化を超えて、人の心を動かすことのできる音楽の力を実感した10日間でした。（高3 藤澤 奈々未）



イタリア ジュリアノーヴァ市にて

茨木スカウト連絡会



私は今夏、韓国で開催された第25回世界スカウトジャンボリーに、ジャンボリー大会の運営をサポートするIST(国際サービスチーム)の一員として参加しました。私が配属されたチームでは30人のチームメンバーの中で日本人が私一人、英語スキルが完璧でない中、“ボーイスカウト”という共通点や年代の近さで言語の壁を乗り越え、コミュニケーションを取ることが出来ました。そのなかで仲間の国の文化や言語について教えてもらい、学ぶことが出来ました。2週間近くも海外の仲間と共に生活をして1つの同じ目標を目指すという、後にも先にもできないような貴重な経験をする事が出来ました。(佐藤 佑樹)



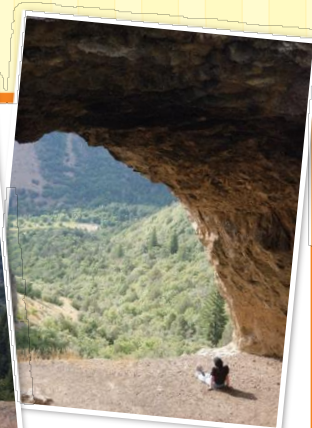
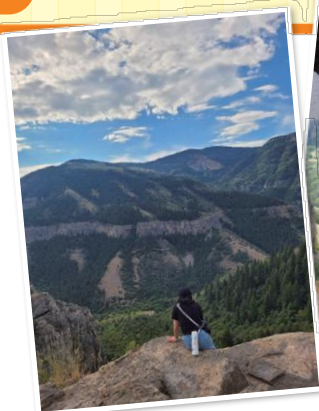
大韓民国にて

私は今回第25回世界ジャンボリーに参加し、様々なことを学ぶことが出来ました。私が特に学んだのはたくさんの人と話すことの大切さです。最初はあまり自分から話しかけることが出来なかったけれど、途中から話しかけることを意識しだすとたくさんの友達ができ色々な国の人々と交流することが出来ました。そして交流することによって伝統的な文化に触れることができました。その方々とは今でも連絡を取り合っていて自分の国の生活の話や世界スカウトジャンボリーでの思い出話をし、次回の世界ジャンボリーもお互い参加したいという話をし再会できたらいいなと思います。たくさんの人と話したことによって人脈が広がり海外に対する様々な知識が増えました。(小林 莉子)

一般財団法人ラボ国際交流センター

私のホストファミリーはおばあちゃんのパメラと私と同じ年のナタリーの二人家族でした。私はこのホームステイでたくさんの不思議なつながりに出会いました。1つ目は甚平です。お土産にjinbeiを渡しました。孫のナタリーは音楽をやっていて、演奏している楽器の名前がじんべい、日本ではジャンベと呼ばれるものでした。同じ名前だったことに驚きました。2つ目は大豆です。ホストファミリーの家族は大豆農家で広い畑を持っていました。私がアルバム紹介で日本の行事を説明した時に節分のページを見てとても喜んでくれました。また、日本のお菓子として持って行ったきな粉のお菓子もおいしいと言って食べてくれました。3つ目は野球です。兄はケンタッキー州で一番大きな都市であるレイビルで作られたバットを使っていました。私が野球観戦が好きな事、兄が野球をしていることがきっかけでオハイオ州にある野球場まで車で連れていってくれました。

実際にアメリカに行って改めて分かったことは国籍や違いなんて関係ないということです。言語が違って、生活の仕方が違って彼らはベストフレンドだと言っていました。それがすごく素敵なことだと思いました。私が感謝していることはホストファミリーや今回出会った人たちの心の広さです。私自身がアメリカについて学んだだけでなく、日本について伝えることがうれしかったです。(ケンタッキー州参加 岡田 美紘)



ユタ州参加の写真

*参加者の報告は、各団体の参加者の感想より抜粋して掲載しております。

一般社団法人茨木カンツリー倶楽部青少年国際交流助成事業助成金基準

協会外事業【ミネアポリス・安慶市への訪問】

助成限度人数40人(個人/団体)

ミネアポリス市: 1人あたり 25,000円

安慶市: 1人あたり 15,000円

協会外事業【姉妹友好都市以外への訪問】

助成限度人数20人(個人/団体)

アジア地域外: 1人あたり15,000円以内

アジア地域: 10,000円以内 (基準表より抜粋)

英語俳句コンテスト

毎年、ミネアポリス市から作品を募集している英語俳句コンテストに今回もたくさんの応募がありました♪各部門の1位に選ばれた作品を紹介します！

◆総評

課題『WINDOW』は私たちに身近な存在ですが、実はそれ自身、非常に広汎な意味を持っています。英語のWINDOWは古代ノルド語から由来し「風の出入りする穴」が原義です。辞書的には①窓、窓枠②窓ガラス③飾り窓④窓口⑤窓状のもの⑥(比喩的に) ~の窓⑦心の窓⑧コンピューターのウィンドウ⑨電波の窓⑩予定表の空白時間などがあります。

日本の俳句には(一句一季)の規定がありますが、いわゆる季語はアメリカのみならず、全世界で日本の季語が通用できません。今回エントリーした作品の中には、季節感のあるものや、季節感のない作品も多くみられました。作品には多くの比喩が見られます。幼稚園から大人までのWINDOW英語ハイクをお楽しみいただければ幸いです。

幼稚園・小学生の部 1位 Sabine Knuffさん

(原 文) Snow is beautiful
Gildes by the sunset window
like atap dancer

(日本語訳) 雪はきれい
まるでタップダンサーのように
夕陽の窓辺を滑っていく

講評

雪の美しい動きが日没の太陽の動きと、タップダンサーの優雅な踊りに喩えた軽快で伸びやかな作品です。

中学生の部 1位 Sullivan Cooperさん

(原 文) It is cold outside
My breath creates stars on glass
Winter is magic

(日本語訳) 外は寒い
私の息がガラスに星を作る
冬は魔法だ

講評

自分の息が冬の冷たいガラスに星を作る。ロマンチックでありユニークな発想です。また3行目のWinter is magicという発想の展開がとても魅力的です。

高校生の部 1位 Ifrah Abdiさん

(原 文) The birds on pane
Remind me of free spirits
Which I dream to be

(日本語訳) 窓枠に留まっている鳥は
私に自由な精神を思い出させる
それは私の夢みているもの

講評

窓枠の鳥は、自由な精神を作者に思い起こさせる。鳥たちに見出す自由な精神こそ、作者が望み、希望することです。鳥の様態に自己を照射させて描くところが文学的です。若者の夢と希望を詠んでいて、若さ溢れる作品です。

成人の部 1位 Diana Leaskasさん

(原 文) Gaze out the window
Rain dripping long strands like veins
Trickling streams on glass

(日本語訳) 窓の外を眺める
静脈のような雨の滴り
ガラスに流れる何本もの細流

講評

2行目の(Rain dripping long strands like veins)では静脈と雨の滴りを対比させたユニークな比喩ですね。滴り(dripping)が3行目の細い流れ(streams)に動くのは、まるで本物の静脈の動きのようですね。自然と人間の関係は、夫々が主人公で対等に交流し合っていることを示しているような作品です。

吉村 侑久代 文学博士。元朝日大学教授・元岐阜保健大学教授。英語俳句の会Evergreen,Silver Gifu,Ibuki,Cosmos主宰。
専門: R・H・Blyth研究 海外における俳句の定着と変容

※総評及び講評は一部抜粋

箕面市 及び 公益財団法人 箕面市国際交流協会表敬訪問

4月25日(火)に箕面市長、公益財団法人 箕面市国際交流協会理事長、事務長が茨木市長を表敬訪問され、本協会からは城谷会長が出席しました。

箕面市及び箕面市国際交流協会の多文化共生や在住外国人への支援などについて紹介いただきました。その他北摂地域における今後の取り組み提案や両市・協会の連携についてお話されました。



通訳ボランティア制度・活動団体を紹介します!

通訳ボランティアにご協力ください!

あなたの外国語の語学力を生かして、茨木市の地域国際化にご協力ください!

日本語が不慣れなため、行政手続き等で困っておられる外国人の方々のため、本協会には「通訳ボランティア登録制度」があります(^-^)!ご登録いただいた後は、ご都合に合わせて無理なく活動していただけます♪

英語以外にも、ベトナム語、ウクライナ語、ロシア語など、様々な言語で登録受付中です!少しでも関心をお持ちの方は、ぜひ本協会までお問い合わせください☆

通訳内容 ▶ 行政手続きや行政に関する相談の通訳や、チラシ等の翻訳(日本語から外国語への訳)

対 象 ▶ 日本語・外国語の読み書き・日常会話ができ、手続き等の通訳やチラシの翻訳ができる方

登録方法 ▶ 登録申請書にご記入いただき、窓口・メール・FAXで、茨木市国際親善都市協会事務局までご提出ください

ご登録いただくと、必ず依頼を引き受けなければならないわけではありません。まずご都合をお伺いし、活動に関しての日時や期間など相談にも応じます♪



WE ARE FRIENDS!

「WE ARE FRIENDS!」では、ゲームなどを通して英語に親むことができます♪ハロウィンパーティーやクリスマスクラフトなど、楽しいイベントが盛りだくさんです(*^▽^*)外国の文化も知ることができますし、新しいお友達もたくさんできちゃいます☆英語って苦手なあ...というお子さんも、日本人スタッフが優しくサポートしますので、お気軽に遊びに来てくださいね!

講 師 ▶ ひさのり 久徳ウエンディ先生

日 程 ▶ 原則2,3,4,5,7,9,10,12月の第3日曜日

対 象 ▶ 小学3年生～中学3年生

参 加 費 ▶ 一人300円(協会会員は無料)

申込方法 ▶ 開催月初めから本協会事務局まで電話または開催月の市広報誌に掲載している二次元コードで申込み



Ibaraki Intercultural Network(IIN)

姉妹都市活動室(IIN)

姉妹都市活動室では、各国からゲストを招き英語でのスピーチを聞く例会を行い、国際交流を深めるための英語力を養っています♪また、茨木市の各名所の歴史を紐解き、その所以や由来などを英語で伝えられるよう、たくさん調べて積極的に活動しています!ぜひ一緒に活動してみませんか?

Zoomを活用してミネアポリス市とオンラインで繋ぎ、定期的にミーティングを行い、日本文化を伝えたり、茨木市の見どころを紹介したり、姉妹都市交流も楽しみながら継続中☆

例会日程 ▶ (8月を除き毎月実施)
第1木曜日: 9時30分～11時30分
第3土曜日: 14時～16時

場 所 ▶ 茨木市福祉文化会館等

年 会 費 ▶ 2,500円(入会の際には、本協会の会員になる必要があります)

ホームページ <http://www.ibaraki-city-iin.com/>

学生、留学生、地域在住の外国人の皆さんも、どうぞお気軽にご参加ください(*^▽^*)

実用日本語学習会

日本語を母語としない方を対象に、基本的にマンツーマンで日本語学習の支援を行っております。マンツーマンだからこそ、いつでも、だれでも、自分のレベルに合わせて学習を始めることができます♪

感染拡大防止のため、オンライン学習と対面学習での学習会を実施しています!(^-^)!

日本語を勉強したい外国人の方、日本語学習の支援を求めている外国人をご存知の方、ぜひお気軽にお問い合わせくださいね。お待ちしております!

と き ▶ 木曜クラス: 13時30分～15:00
金曜クラス: 10時00～11時30分
※オンライン学習の授業時間は60分

と ころ ▶ クリエイトセンターもしくは福祉文化会館(対面学習の場合)

ひ ょ う ▶ 学習者2,000円(1期1クラス分)
※テキストは実費です。
支援者500円

ホームページ <http://www.ibaraki-nihongo.sakura.ne.jp/>

※内容に変更がある可能性があります。詳しくはお問い合わせください。

●通訳ボランティア制度・各活動団体について、れんらくするところ

茨木市国際親善都市協会事務局 TEL 072-620-1810 FAX 072-622-7202 mail: cadifai@city.ibaraki.lg.jp

茨木市国際親善都市協会のホームページをご覧ください!!

協会ホームページでは、「新着情報」・「募集情報」など、協会のイベントの情報を発信しています。また、姉妹都市活動室や実用日本語学習会のページ、多言語での情報発信をしているページの情報なども掲載しています。
ぜひチェックしてみてください!

茨木市国際親善都市協会ホームページ
<http://www.ifai.jp/>



MINNIBARAKI に記事を投稿してみませんか?

MINNIBARAKIとはMISCA(ミネアポリス市・茨木市姉妹都市協会)の皆さんが作成されているニュースレターのことです。現在2月、5月、8月、11月の年4回発行されています。協会会員の皆様もミネアポリス市のみなさんにメッセージを送ってみませんか?

ミネアポリス市との交流に関すること、日本文化の紹介、ご自身の国際体験など、ミネアポリス市のみなさんに読んでもらいたい内容なら何でもOK! 写真を一緒に掲載することもできます♪なお、応募原稿は全て英語でお願いします☆皆様からのご応募お待ちしております♪

応募方法 申込書・応募原稿を協会事務局へメールで提出(申込書は協会HPからダウンロード、または窓口で配布)

応募締切 各号の3か月前の月末(例: 11月号への応募なら8月末まで)
※発行状況によって変更になる可能性があります。

応募原稿について詳しくは本協会HPのMINNIBARAKIのページをご覧ください。▶



茨木市国際親善都市協会 会員募集!!

本協会では、茨木市の姉妹・友好都市をはじめ、国際交流に興味を持っておられる方の入会をお待ちしています。

会員のみなさまには、協会が催す交流行事のご案内や、協会主催事業への参加費の一部助成、また、年2回発行する協会報を送付しております。

主な活動内容	国際交流の集い
	姉妹・友好都市への市民親善訪問 中・高校生の「英語スピーチ大会」など
年会費	個人会員:(一般) 2,000円 (学生) 1,000円 団体会員: 一口5,000円
	申込先 本協会事務局(茨木市市民文化部文化振興課内) TEL 072-620-1810
協会ホームページ: http://www.ifai.jp/	

編集・発行

茨木市国際親善都市協会

〒567-8505 茨木市駅前三丁目8番13号 茨木市市民文化部文化振興課内
TEL.072-620-1810 FAX.072-622-7202 ホームページアドレス <http://www.ifai.jp/>

次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。